

R7効果検証

スペース分析のサマリ

空間構成の見直しを実施し、 書類やモノで囲まれていたフロア内から**明るく開放的な環境へと変化**

効果

機能別エリア面積の比較

「稼げるまちづくり」につなげるスペース

11%増

空間構成の見直しにより「稼げるまちづくり」につなげるスペースを約11%創出しました。

効果

セキュリティの考え方

外部者立ち入りエリア

4%減

エリア面積上の削減率は高くはないが、来客対応の効率化と立入制御により、実質的な安全性の向上を実現しました。

効果

1人あたりの執務面積比較/動線比較

1人当たりの執務スペース 1人あたりの通路スペース

2%増

1.8倍

オフィスの最適化により、1人あたりの執務環境水準を保ちながら、フロア全体の機能充実と安全性を向上しました。

効果

キャビネット削減率

収納スペース

収納量

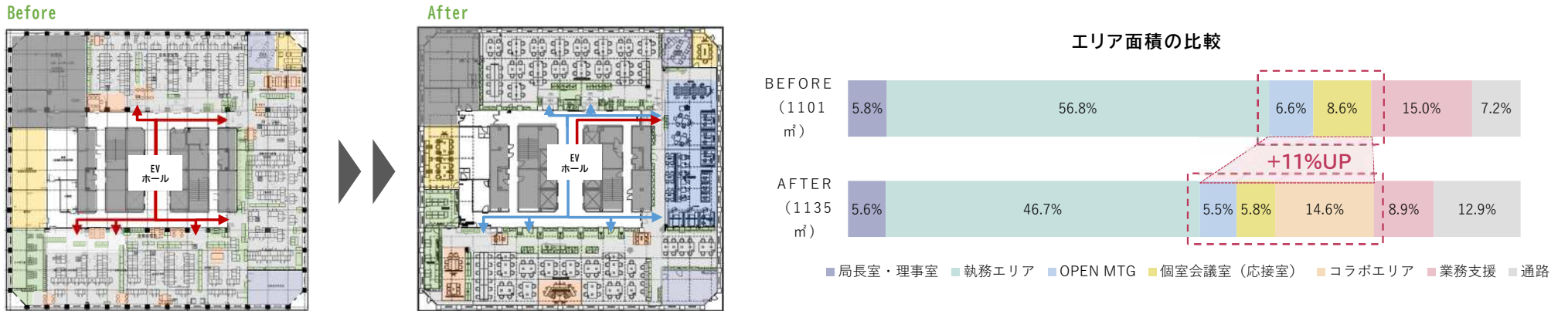
53%減

53%減

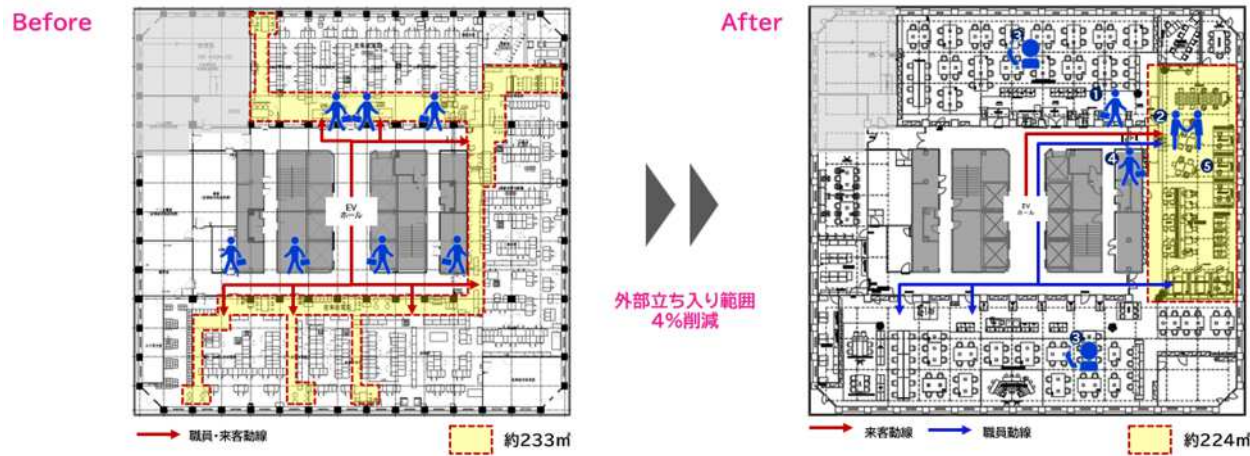
キャビネット集約によりフロアスペース効率および書類量削減を実現しました。

スペース分析

【機能別エリア面積の比較】★空間構成の見直しにより「稼げるまちづくり」につなげるスペースを約11%創出！



【セキュリティの考え方】 ★来客対応の効率化と立入制御により、実質的な安全性の向上を実現

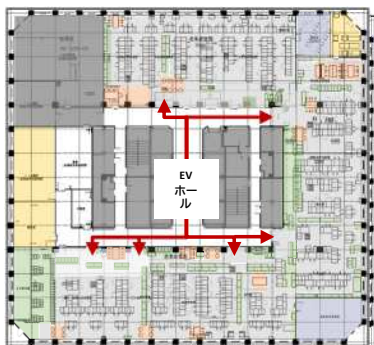


スペース有効活用

【1人あたりの執務面積比較/動線比較】

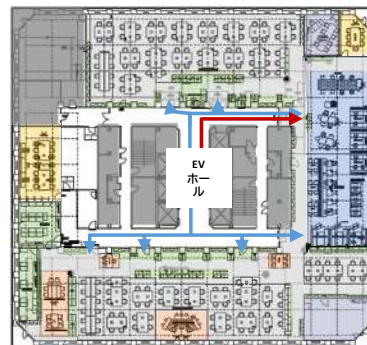
★オフィスの最適化により、1人あたりの執務環境水準を保ちながら、フロア全体の機能充実と安全性を向上

Before



- ◆ フロア全体から見る1人あたりの執務スペース
(執務エリア/OPMTG/個室会議室/コラボエリアから算出)
執務イス数:153席
 $792.5\text{m}^2/153\text{席} = \text{約}5.2\text{m}^2$
※在籍人数ではなく机・イス数にて算出
- ◆ 通路から見る1人あたりの通路スペース
 $79.78\text{m}^2/153\text{人} = \text{約}0.52\text{m}^2$
※在籍人数にて算出

After



- ◆ フロア全体から見る1人あたりの執務スペース
(執務エリア/OPMTG/個室会議室/コラボエリアから算出)
執務イス数:151席
 $798.28\text{m}^2/151\text{席} = \text{約}5.3\text{m}^2$
※在籍人数ではなく机・イス数にて算出
- ◆ 通路から見る1人あたりの通路スペース
 $147\text{m}^2/153\text{人} = \text{約}0.96\text{m}^2$
※在籍人数にて算出

【キャビネット削減率】 ★キャビネット集約によりフロアスペース効率および書類量削減が実現！

Before: 収納が点在し、無駄に執務スペースを占有



収納スペース(設置総面積)

= 112.5m^2

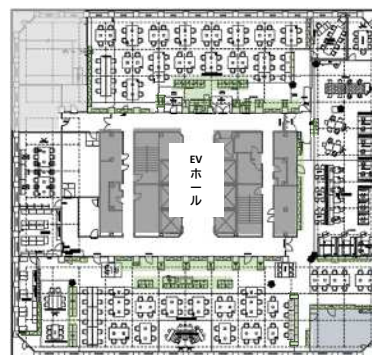
※机付随の引出し部の設置面積は含まず

収納量

= 827Fm

※机付随の引出し部の収納量は含む

After: 収納を集約、スペース効率UPを実現



収納スペース(設置総面積)

= 52.5m^2

スペース約53%削減

収納量

= 385.2Fm

収納量約53%削減

アンケートの効果(定量効果)

すべてのアンケート項目で満足度が上昇しており 全体の働きやすさが大きく改善

効果

全体

重要度数値の
向上率

6%増

満足度数値の
向上率

101%増

オフィスリニューアル後、すべての項目で満足度が上昇しており、
全体の働きやすさが大きく改善したと考えられます。

効果

部長・課長クラス

重要度数値の
向上率

8%増

満足度数値の
向上率

102%増

特に課題とされていた「高機密性ワーク」において、重要度と満足度の
大きな乖離が解消されたことが特徴的であり、周囲に聞かれたくない
相談を行える環境整備が寄与していると考えられます。

効果

係長クラス

重要度数値の
向上率

7%増

満足度数値の
向上率

94%増

事前に重要度と満足度の乖離が高かった「高機密性ワーク」「高集中ワーク」
「庁内関係構築」のギャップは事後に大きく縮まり、チーム間の連携や
集中作業を支える空間づくりが機能しています。

効果

主査・主任・係員

重要度数値の
向上率

7%増

満足度数値の
向上率

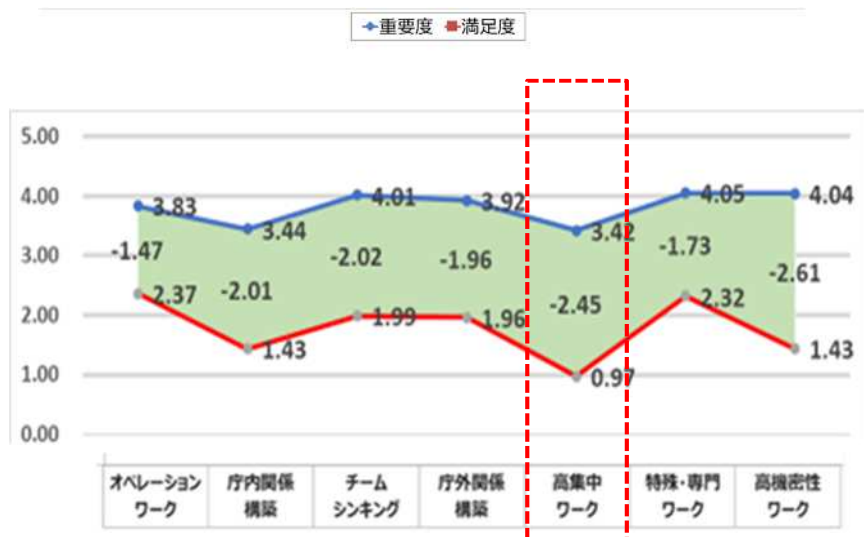
107%増

事前調査で重要度と満足度の乖離が特に高かった「高集中ワーク」
「庁内関係構築」「高機密性ワーク」は事後に大きく差が縮まり、一般職が
抱えていた作業環境への不満が大きく解消されたことが分かります。

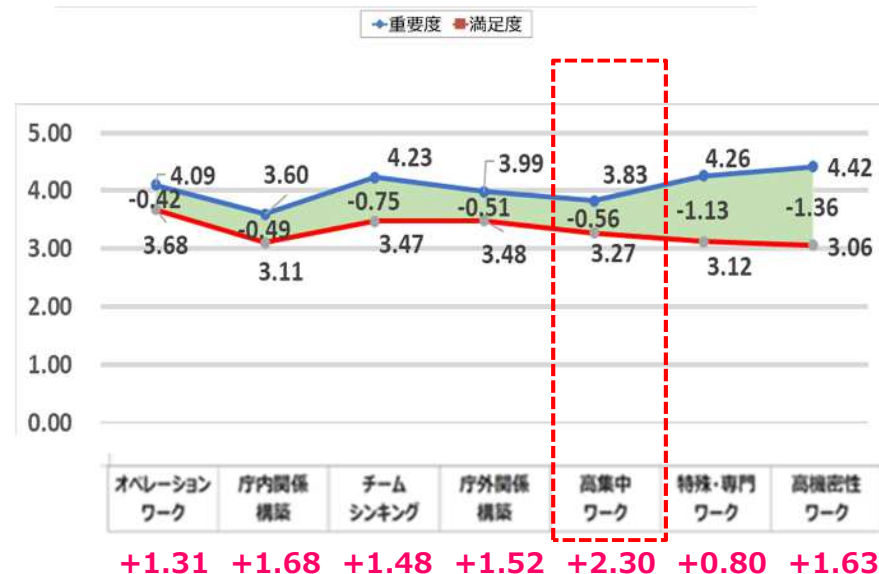
2. 働き方アンケート

① 7つのアクティビティにおける各役職ごとの変化【全体】

① 事前 (25.9月)



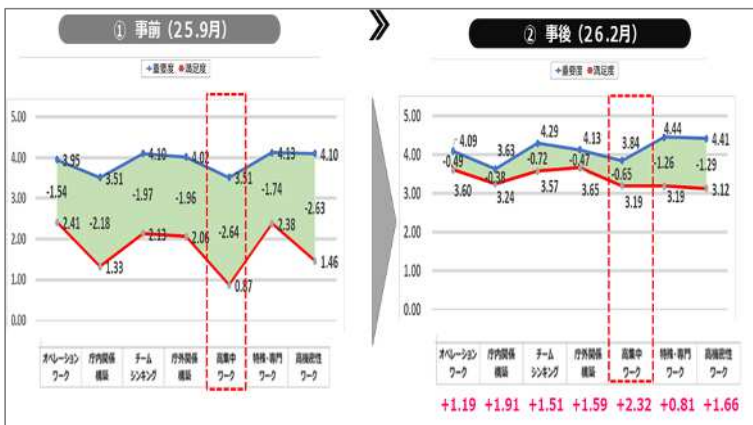
② 事後 (26.2月)



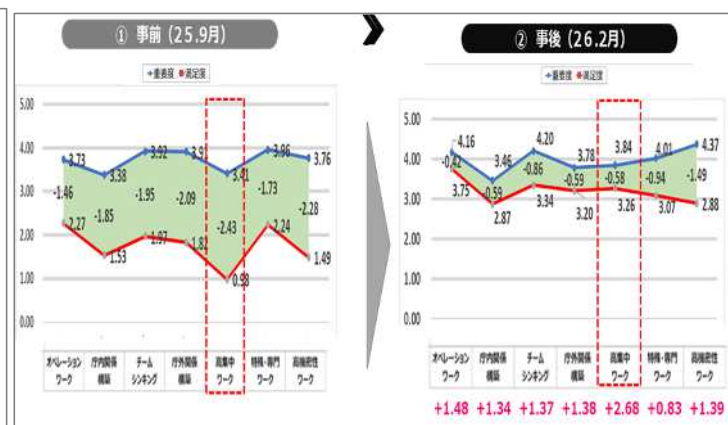
②7つのアクティビティにおける各役職ごとの変化【役職ごと】

事前調査では、一般職・係長クラスとマネジメント層で重視する課題が異なっていたが、リニューアル後は、全階層で満足度が向上し、**役職による環境評価の差異が解消**。

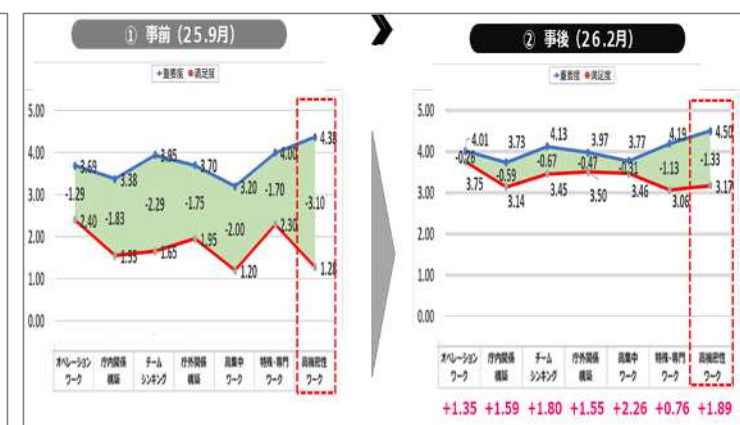
【主査・主任・係員】



【係長クラス】



【部長・課長クラス】

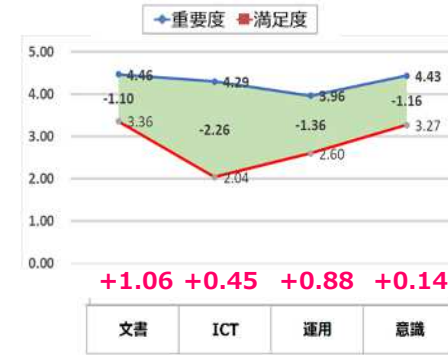


③「空間」「ICT」「運用」「意識」における改革前後の変化

① 事前 (25.9月)



② 事後 (26.2月)



主査・主任・係員



係長クラス



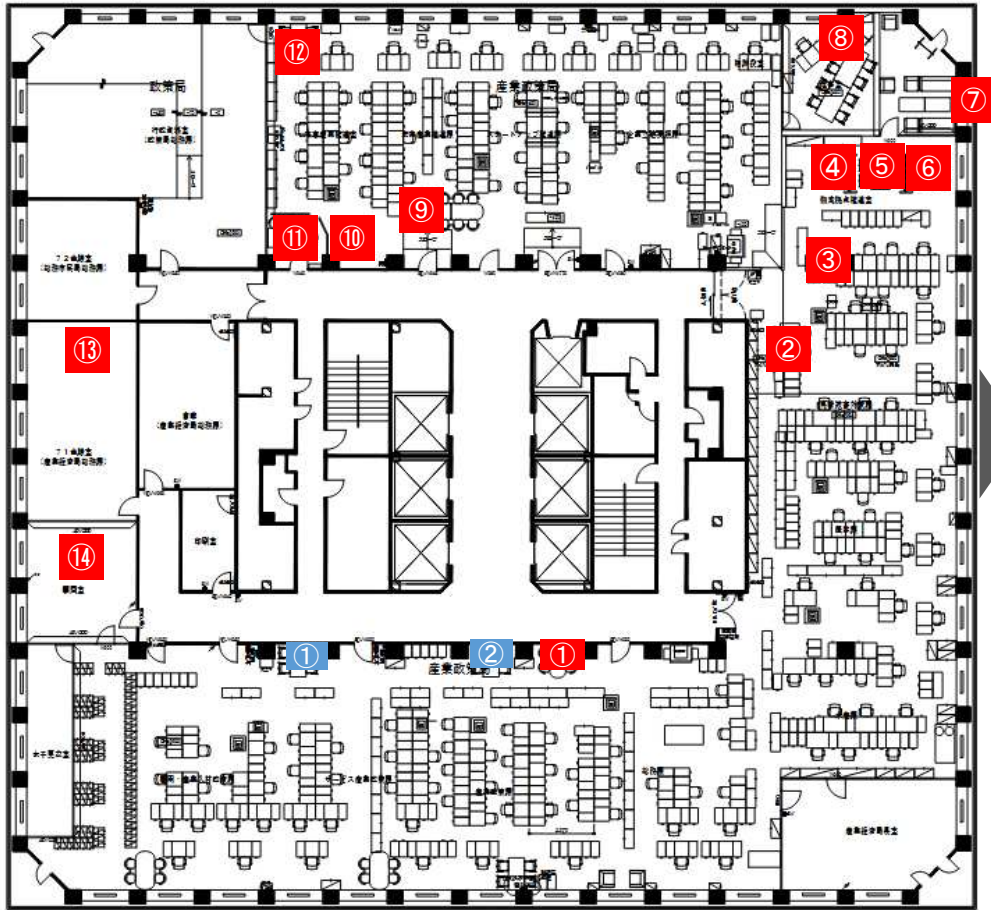
部長・課長クラス



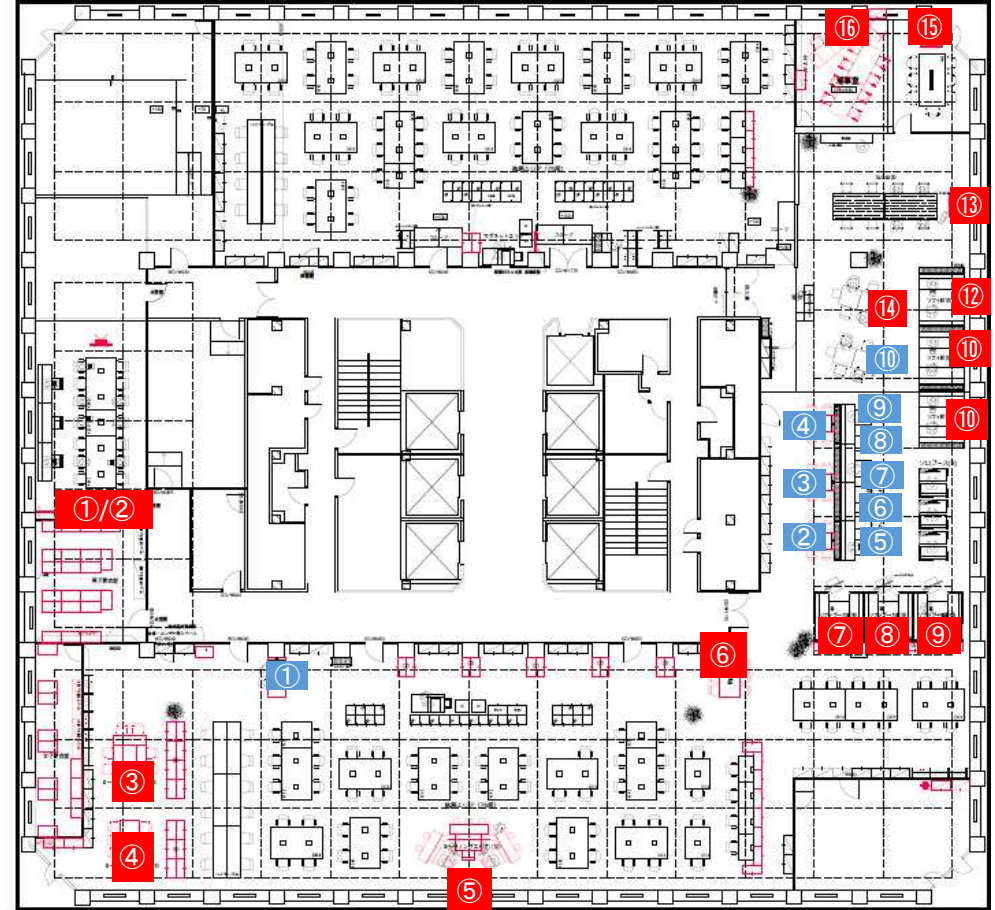
モニタ設置/打ち合わせスペース

★モニタの台数については12%増加

Before: 14モニタ/16打合せスペース



After: 16モニタ/26打合せスペース



■ モニタ設置済打合せスペース

■ モニタ未設置打合せスペース

4. 業務プロセス改革

働き方ヒアリングのサマリ

総じて、コミュニケーションに係わるポジティブな意見が多数

(来客対応・他の係/課メンバーと・上位者への相談・Web会議・雑談から業務連携など)

効果

4つのAction!

【ヒアリング結果】

- ・コミュニケーションが取りやすい文化へ変化
- ・上位者と相談しやすくなった
- ・他課との会話機会（雑談など）が増えた
- ・業務状況に合わせて、座席を柔軟に運用

効果

職員の能力を最大限発揮

【ヒアリング結果】

- ・全庁業務では仕事の仕方は変わっていないが産経内は仕事の進みが早くなった
- ・業務の場面に応じて最適な場所の選択が可能（ソロブース、セミクローズなど）

効果

新たな価値を創造する活動が活性化

【ヒアリング結果】

- ・仕事が効率的され、新たに生まれた時間を活用し、今後は新しいことに挑戦
- ・他課との会話機会（雑談など）が増えた
- ・軽微な紙は無くしていこうというマインドに変革
- ・業務状況に合わせて、座席を柔軟に運用

効果

部門横断または多様な企業・団体との連携が加速

【ヒアリング結果】

- ・他課や違う系の職員が隣に座ることで、普段話さない人との交流や自然な情報共有がしやすくなった

課題（ネガティブ意見）

【ヒアリング結果】

- ・机が狭い（特に図面を見る技術職など）
- ・始業や終業時の準備に時間がかかる
- ・外線電話の取り次ぎが不便
- ・誰がどこに座っているか探すことがある
- ・声のボリュームを気にする場面が増えた

産業経済局 オフィス改革の成果(総括)

北九州市の産業振興推進を担う産業経済局にとって、 オフィス改革を通して「稼げるまち」へつながる 取組みとなった

- コラボ活用にて、頻繁に訪れる 外部関係者との「新しい共創」につながる
 - 北九州市産材「KITAQ WOOD」を見て・触れて・体感 でき、利用拡大につながる
 - 産経内では 仕事の進め方が効率化しているため、新しいことに挑戦する時間 が生まれる
 - 他係・課メンバーとの会話が生まれ、業務連携や新たなアイデアなど 仕事の質向上 につながる
- (産経内アンケート)
- 職員アンケートの結果、74%が「今のオフィスのほうが良い」と評価。
職員満足度が上がれば、市民サービス向上 にもつながる